慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1991(秋・冬号) vol.6

SHIKI

2nd総会開催決定

あのフィーバーが甦える！

(創立総会より)

〔告知〕

平成4年11月29日(日)昼頃より

京王プラザホテル(新宿)にて開催します。

FROM SHIKI ●志木だより

1年生アンケートから

本年度の新入生は志願者総数2653名（うち、帰国子弟96名）の中から1・2次の試験を経て選抜され入学した者331名(うち、帰国子弟11名)、中等部からの塾内進学者10名でした。例年よりかなり多く、8クラスでスタートしました。過日、新入生を対象としたアンケート調査が実施されましたが、その中からいくつかの話題を紹介したいと思います。

居住地をみると、東京都が180名で全体の55％を占めていますが、23区が83名で25％、その他都下が97名で30％となっています。ついで埼玉県が85名で26％、千葉県が48名15％、神奈川県が15名で5％となっています。通学の交通機関をみると、全体の56％の生徒がJR武蔵野線を利用しており、居住地の広がりに丁度符合しています。ひと昔、ふた昔とはだいぶ様子が違っていることがおわかりでしょう。

新入生全体の一割に及ぶ34名が、海外での学校生活をこれまでに経験しています。滞在期間は5～6年が多いが、なかには10年を越えている者もいます。また、小学校1～3年でアメリカ合衆国、6年～中学3年でブラジルというように複数の国での生活を体験している者もいます。国際化時代の一端がこんなところにもあらわれています。

志望理由についてはいろいろな回答がありました。環境がよい。広い。雰囲気が良い。少人数でまとまっている。内部進学者が少なく早く友達が出来ると思った。通学の便がいい。自由でいろいろなことが出来ると思った。自分の個性が伸ばせると思った。校風が自分にあっていると思った。志木の先輩に勧められた。二次試験の時の感じが良かったし先輩が楽しそうだった。中にはこんな回答もありました。――――レベルが高いしツブが揃っている。――――OB諸氏はどうお感じになりますか。

（松崎欣一先生記）

マンドリンクラブ 15年連続優秀大賞受賞

去る7月27日・28日に大阪城にほど近い森の宮・大阪府青少年会館で開催された第21回全国高校ギター・マンドリンフェスティバル（朝日新聞社主催、49校参加）において、本校マンドリンクラブは三年連続優秀賞により大阪市長賞を受賞し、同時に第7回フェスティバルに初参加以来15年連続優秀大賞を贈られました。思いかえせば、この間第10回と15回には最優秀賞たる朝日新聞社賞の栄冠に輝いてきましたが、これらの評価を受けてこられたのも、その時どきの部員諸君の不断の努力のたまものであると同時に、卒業されたOB諸氏や服部正先生はじめKMCの皆さんの御指導御協力のおかげであろうと感謝と喜びの気持でいっぱいです。今ここにフェスティバルでのこれまでの演奏曲目・作曲者そして歴代の指揮者諸氏を紹介し、クラブの足跡をたどってみたいと思います。

第7回	序曲レナータ　G.ラヴィトラーノ	釜堀裕久
第8回	序曲第1番　K.ヴェルキ	高橋将人
第9回	ローマトリノ序曲　D.ジョバンニ	久保光司
第10回	過去への讃仰　L.M.ファクト	久保光司
第11回	ニ短調序曲　S.ファルボ	久保光司
第12回	オラッチ兄弟とクリアッチ兄弟　D.チマローザ	久保光司
第13回	オアシスにて　E.マルティ	久保光司
第14回	カイロの鷲鳥　W.A.モーツァルト	久保光司
第15回	序曲第1番　K.ヴェルキ	会沢祥一
第16回	オアシスにて　E.マルティ	笹崎　譲
第17回	カイロの鷲鳥　W.A.モーツァルト	當間智明
第18回	海の組曲　A.アマディ	菅原秀明
第19回	雪　G.ラヴィトラーノ	野澤洋亮

第20回　序曲第１番　K.ヴェルキ　　田辺　健
第21回　セヴィリアの理髪師　G.ロッシーニ　　細井　勉

（三条彰久先生記）

剣道部 五大学附属大会で優勝

さる８月12日に開催された五大学附属剣道大会に於いて剣道部が完全優勝を果しました。また２年生春川和也君は全試合を勝ち抜き、立派な試合態度が評価されて最優秀選手賞を授与されました。これも「以和為貴」をモットーに全部員が一致して努力をした成果のあらわれといってよいでしょう。

戦績	１回戦　対立教	２対１
	２回戦　対慶応(日吉高)	４対０
	３回戦　対早稲田	３対１
	４回戦　対法政一	４対２
	５回戦　対法政二	７対０（不戦勝）
	６回戦　対明大明治	５対１
	７回戦　対明大中野	３対３（本数勝ち）

（福本裕先生記）

語学課外講座開設される

語学課外講座が９月６日から正式にスタートしました。毎週金曜日の放課後に50分・２コマの授業で、19言語の講座が開設されています。すでに正課の外国語は必修の英語の他に自由選択科目としてドイツ語とフランス語が用意されていますが、欧米の言語もさることながら、日頃学習のチャンスの少ない言語を優先しとくにアジア・中東の言語に重点が置かれています。初年度は各クラスとも初級で、文法構造の説明からではなく言いたい事柄をどう表現するかに重点を置き、文字に慣れ、綴り字と発音の関係を完全に習得することを目標としています。文法学習は最重要項目に限定します。さらに言語学習を通じて世界の国々や諸民族の歴史、文化、政治、風土への理解を深め、視野の広い生徒が育つことを期待しています。

開設された講座は次の通りです。かっこ内の数字は聴講者数を示します。アラビア語(40)、イタリア語(41)、ヴェトナム語(22)、古典ギリシャ語（９）、古典ラテン語(15)、サンスクリット語(14)、スペイン語(40)、スワヒリ語（５）、タイ語(39)、中国語(41)、朝鮮[韓国]語(40)、トルコ語（５）、ビルマ語（５）、ヘブル[ヘブライ]語（８）、ペルシャ語（３）、ポルトガル語(37)、[マレーシア]インドネシア語(14)、モンゴル語(21)、ロシア語(40)。総数439名で、本年度の生徒総数は877名ですからちょうど全体の２分の１の生徒が参加していることになります。講師の先生方も、生徒たちが呑み込みも早くまじめで教えがいがあると熱心に指導なさっています。

６月27日の毎日新聞社会面でも取り上げられるなど各方面の反響も大きく、将来に大きな実りを期待しつつ、慶應義塾の一貫教育の下ではじめて可能な試みとして定着化させたいものです。　（松崎欣一先生記）

講師一年生

住谷アサ

先日萌木委員から何か大きな失敗をという依頼がありました。小さな失敗なら毎日のことですが、具体的なことも思い浮かばずひら謝り、勘弁していただきました。……がその後はっと大失敗を思い出してしまいました。実は、それはたまたま志木高校の講師をさせていただいた時のことでした。七月のテストが済み成績表が一人一人に渡された頃だったと思います。志木高の一年生から家に電話がありました。「先生のつけた僕の成績がおかしいんです。隣の子と成績を見せ合ったんですけど、もしかして、その子ととり違っていることはないでしょうか？」えっ!?　そんな間違いが…？　やはりその恐ろしい推察がぴたり的中。大失敗でした。早速二人の生徒に謝り訂正したのは勿論のことですが、先生方も御寛大で始末書も書かずに見逃して下さり大変恐縮しました。この苦い経験に端を発し、あれこれ思う中に当時の志木高生の顔が次々に思い出され、少し書いてみたくなりました。

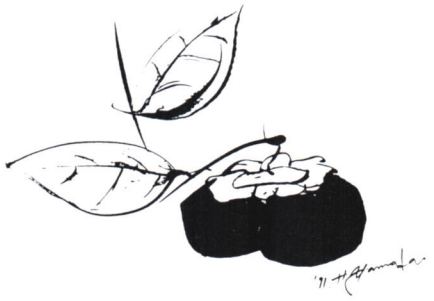
それは昭和六十一年四月からの一年間で、週八時間のピンチヒッターでした。その前の二年間は女子高数学科の他の先生方が各一年間ずつ志木高に出講しておられ、もうこれで最後という年に、私にも機会が与えられました。「女の子とは違った発想もあって面白い面もありますよ。」「男の子の高校では若い女の先生は歓迎されるけどねェ。」などとおっしゃる先生方のお話もうかがいましたが、永い間、井の中の蛙で過ごしてきた私には一つの試練ともおもわれ、緊張してスタートしました。けれど今思い返してみますと、何と言っても志木高は自然に恵まれた広大なキャンパスと親しみのある先生方、そして見上げるばかりの立派な体格の生徒も〝スミバア〟などと呼びこそすれやはり可愛い聡明な一年生で救われました。

東上線志木駅から学校に近づくと黒々とした土のテニスコートが目に入ります。そこには朝の練習に励む生徒達の姿があり、こんなコートが一面でいいから女子高にもあったらなあと思いながら通いました。四月、五月は構内の柿の芽ぶきが輝いて美しく、芝生には椋鳥が次々集まり忽ち五十羽を越えるほど。それに土鳩・山鳩がやって来て賑やかなこと。いつまでも見飽きない光景でした。四月の末、敷地内にあるという寄宿舎の方にも足を伸ばしてみました。八重桜、花水木、白い木瓜（ぼけ）等々が満開で、如何にもうららかな春の野の散策という感じでした。五月の連休明けには、学校の樹々の緑がぐっと濃くなり、六月になると「今日学校で鶯の声を聞きました。でも生徒の反応はないんですよ。」といった先生の声が聞かれました。ここが自然に恵まれ過ぎているからでしょうか。

また、六月も半ばを過ぎた頃の昼休みのことです。「寮生で布団や洗濯物など干してある人は早速取り込むように」と俄雨の注意が放送でかかりました。寮生の生活が身近に感じられ思わず笑顔になってしまいました。その寄宿舎から直接授業に出られる舎監の先生もいらして、勝手に御苦労を想像したりしていましたが、その後寄宿舎が閉ざされたと聞き複雑な思いがしました。構内の立派な一口枇杷も色づいてきた頃のこと、放課後には、「鳥が食べに来ているからもういいでしょう。」ともぎたての枇杷を勧めていただき、可愛い枇杷の試食会もありました。でもやはり、志木高の果物といえば柿。「昔は生徒に二個ずつ程配ったこともあるんですよ。」と聞いたこともあります。前の年は柿の当たり年だったとかで、その年志木高で講師をしていらした國府方先生がたくさんいただいて帰られ、皆で御馳走になり、今でも、「志木高の柿はおいしかったですね。」と話題になっています。

生徒も段々慣れてくると、「先生、何年生れ」などと人のどきっとするようなことをさり気なく聞いてきます。こちらも「女性に年を聞くものじゃないのよ。」とさり気ない顔で、女子高に帰ってその話をすると「明治生れって言えばよかったじゃない。」とK先生のとっさの答え、後のまつりです。女子高では同性の誼もあってかそういう質問はないのですが、もう何年も前のこと、クラブの生徒と出かけた帰りに一年生に聞かれました。「先生、お子さん何人ですか？」「さあ、当たらないと思うけど当ててみて。」「じゃ十人？」ですって。こちら独身貴族ョ、とはどうしても言えない〝ミス〟。今ならさしずめお孫さん何人ときかれることでしょう。ちなみに昨年の日本女性一人当りの平均出産率はこれまで最低の一・五七人とか。

その当時、志木高一年生の教室は部屋の後方に入口があり、私は始業ベルが鳴ると着席している生徒の間を通って一番前の教卓まで行っていました。その時の私はまさに生徒の間にうずもれてしまいそうで、哀れを感じたこともありました。ある日のこと、授業がすむと「先生、○○君は聞いてなくたってできるんだから僕達庶民を相手に教えてくれればいい」と言われ、



カット（山田季孝、美術科教諭）

受験競争の激しさを感じたこともありました。そうかと思うと冗談まじりに「女子高の○○ちゃん紹介して下さい」などという声も聞かれました。これを聞いたら女子高生は、可愛い志木高生、と思うでしょうか。週二時間教室で顔を合わせるだけのお付合いでしたが、先生方の御配慮もあり、授業中は女子高生よりぐっと静かで、始業ベルとともにきちんと着席しているという点などは、是非女子高生に見習って欲しいところです。

秋には教室の窓から天高くをしみじみ感じ、青空を見上げます。四階の教室にも届くばかりの大きな樹々がゆさゆさと揺れ風のざわめきが聞こえ、構内のいたるところに見上げる欅の大木やどうだんの紅葉は、美しい武蔵野の秋です。しかしはらはらと風に舞う落葉も、風情があるとただ眺めているわけにはゆかないのが現状で、道路を隔てたマンションから木の葉を掃除するよう苦情もでるとのことでした。昔はとにかく一面畑と牧場、駅前に定食屋があっただけだったというお話が思い出され、学校から駅までの開けた眺望を想像して、このマンションがなければ……などとついつい勝手な考えが出てしまいました。秋も増々深まると、取り残された柿に野鳥がいっぱいで、「あれはこじゅけい、ひょんひょん飛ぶひよどり、ゾロゾロと来る椋鳥の親子」などと教えていただき一服します。「ここでは人手がなくおばさんの代りに機械が来ました。」などと笑いながら先生が、ボタンを押せば出るお茶を運んで下さいました。

そうしているうちに年が明け、ばたばたと一、二月が過ぎてしまいました。志木は東京より四度位気温が低く、燃料費も東京の三倍位かかります、とのことでしたが、その年はたまたま暖冬だったせいか特に寒さを感じることもなく過ごしました。

自分の教員生活も終わりに近くなって、初めて講師という立場を経験し、先生方の気取らない大らかな雰囲気に触れ、女子高の講師の先生にはこんな風には出来なかったと反省することが多少ありました。惰性で過ごしていた私は、貴重な経験をさせていただきました。他人様の御迷惑をも顧みず。

（付記）

過日、松崎先生から私が女子高の「萌木」26号に寄稿しました拙文を志木会会報に載せて下さるというお話をいたゞき、恥の上塗りと思いましたが光栄におもいお言葉に甘えました。

志木会会報は引き続きお送りいただき、特に卒業生の方々の座談会は思わず吹き出してしまったり、楽しく拝見しております。

当時志木高１年生だった方々も今はもう大学３年生ですね。懐かしさと恥かしさの入り交った気持ちです。御成人を楽しみに。　（スミバアより）

（女子高教諭、1986年度志木高数学科講師）

卒業式に卒業40年のOBを招待

志木会の皆さんへ

校長　鉄野善資

今年もまた「収穫祭」（44回目）の季節がめぐってきました。私にとっては２回目です。

さて、前回の春・夏号には、今後の諸々のご支援をお願いする旨縷々申し述べましたが、卒業後四十年の記念の年に卒業式にご参列いただく考えのあることもお知らせしました。

来春の卒業式（平成４年３月24日）には、第一期と第二期の卒業生諸氏にご列席いただきたいと存じます。本来ならば、今春、実現すべきでありましたが、私の就任早々のこととて思うに任せませんでした。失礼ながら、上記の要領で進めさせていただきます。具体的には、卒業年度の生徒担当の先生方とご相談いただきながらよろしくお願いいたします。

学校としては、卒業生諸氏が誇るに足る母校であり続けることを第一と考えておりますが、四十年目にお招きするのは学校ができるささやかな一つの試みでしかありません。青春を振り返るよすがにでもなればと思います。

私の一案にすぎませんが、当時の教職員の方々に可能なかぎりお出かけ願えれば、いっそう楽しい時を過ごしていただけるのではないでしょうか。折角の機会ですから、よい知恵を出し合ってください。

ご招待をお受けするにあたって

会長　櫻井英太郎

鉄野校長先生の志木会に対する心暖まるご配慮とご提案に深く感謝しております。

志木会もその会員数が既に八千人を越え、各人が多方面で仕事に勉学に励んでいますが、これだけの数になりますと、ともすれば会員諸氏の心が離れがちになり易いものです。しかしその心を一つにしてくれるのが母校です。時代は移り変わろうとも、志木高で青春時代を謳歌したという事実は変わりません。

他校に比べても、むしろ他には類を見ない師弟関係のある志木高には、素晴らしい人間教育のできる環境があります。そのような学校と卒業後も良い関係が保てるよう、一昨年より志木会は収穫祭にOBとして参画しております。そして今回卒業式への卒業生出席のご案内を頂き、母校との絆をより深く築くためにも、学校のご配慮に感謝申し上げます。

志木会としても教職員の方々と意見を交換して、学校と志木会がより良く発展していくことに寄与したいと願って止みません。

同期会だより

4期

昭和29年高校卒の私達は日吉、三田、志木の三校合同で同期会を作り名前も29年卒に因み「福の会」と称し毎年12月中旬の土曜日に総会を開催してます。

そして各校が交互に当番幹事となり色々案を練り時には学生時代より音楽を趣味としていた連中がバンドを組んでジャズを奏で、唄い大変楽しい会になっている。今年はもう10回目になるが出席者も年々増え現在の場所をもっと広い所に変えなければと嬉しい悲鳴をあげている次第です。

そしてこの会を如何に楽しいものにするかという打合せを隔月にその年の当番幹事と常任幹事が集り、よく飲み、よく食べ、そしてよく喋って企画を立てます。但しそれだけでは済まず飲み足りない連中が中心となりその後又々同じ顔触れで夜の巷へと消えて行くのが慣例となっている大変楽しい同期会です。

（4期　高橋　公郎）

……

6期　真珠湾五十年

日米開戦のハワイ奇襲から五十年、半世紀が経過しようとしている。吾々日本人の心の中からは忘却の彼方へ消え去ろうとしている真珠湾は、現地アメリカ人の心の中では風化するどころか、戦艦アリゾナの残骸やアリゾナ記念館の戦没者記録と共に、リメンバー、パールハーバーを叫んでいる。日米間の軋轢の深刻化を考える時、日米関係の歴史を省て、この原点を忘れてはなるまい。

終戦の日は遠くなり法師蟬　　久和雄

（6期　内藤久和雄）

……

9~11期　新聞部の集い

去る6月15日(土)、9期～11期の新聞部のOBの集いを開いた。

これは、日吉・女子高各新聞部33～36年卒業のOB部員からの呼掛けにより、3校合同のOB会に先だって本校のみのOB会であり、10名近くが集まった。

中には高校卒業以来の顔合せもあり、つきなかったのは古い昔話ばかり。32年に普通高へ転換したのを期に、有志の数名が集まり新聞を発行。ペンは剣より強しの教えにより、各々の正義感と単なる趣味を交えて、記事を書くために取材という名の授業さぼりで〝またも惜敗、野球部 2－9〟〝今月の封切り映画〟〝生徒会はいかにあるべきか〟等々の見出しで記事をかき集めたこと、広告取りで苦労したこと、等々話はつきなかった。なお、創刊号から3年間の志木高の新聞を大切に保存し、当日持参してくれた当時の馬場編集長(10期)の熱心さには頭が下がる思いであった。

（10期　荒木　幸生）

……

11期　遊志会

本年度のスケジュールも残り2回(10月第13回セミナー：資生堂経営戦略／11～12月第43回ゴルフ大会及び納会) となりました。

前号で掲載しました以降の今年の活動状況は下記のとおりです。

○4月19日(金)　第12回セミナー

於にほんばしエド

「JAS吉岡機長(11期)の話」

出席者14名

「パイロットのつぶやき」と題し、大変興味深い経験談を話して頂きました。

航空機利用が多くなった現在、全員真剣に傾聴しました。

○6月22日(土)　第42回ゴルフ大会

於霞ヶ浦国際G.C

優勝　松本雅良

2位　野村　昭
3位　谷村静男

参加者17名

天気予報のとおり午後から雨になりましたが、高山先生にも参加して頂き5組で楽しくプレーできました。

コースは非常に良く好天であればよりハイレベルのスコアになったのに残念です。

○7月20日(土)　東京湾サンセットクルーズの納涼夕食会

参加者23名

夫人8人、子供2人の同伴で洋上でフランス料理に舌鼓をうちました。

家族同伴の企画が多くなってきましたのは年令のせいでしょうか。

楽しい一夕でしたが曇天のためサンセットを見れず残念でした。　(馬渕 記)

……

15期 亦楽会近況

15期E組大村泰三君の消息がわかりました。日本生産性本部よりNY大に留学の後音信が絶えておりましたが、現在は東京の米国大使館商務部におります。日米貿易交渉の最前線で活躍中です。

亦楽会A組幹事の大川君と、大村君のお子さんが偶然小学校の同級生で、父親参観の折20数年ぶりの再会となったそうです。

本年度の亦楽会は11月2日(土)に東京三田倶楽部で開催致します。久しくあっていない、古き良き友人と会えることが楽しみです。

(総幹事　倉田　伸二)

……

22期

2月16日(土)　同期会風景より
帝国ホテル　三田クラブより

「ニッパチ会　全員集合!」

28年生まれを中心とする22期の「ニッパチ会」は、来年2月の第三土曜日に帝国ホテルにて予定通り行なわれます。出欠のハガキを1月に出しますので、同期の皆さんふるってご参加下さい。

26期 近況

金子泉君は、平成2年4月ひまわり南幼稚園々長に就任、ますます幼児教育に熱が入ります。お子様の悩みは、金子園長までどうぞ!

石川哲朗君は、平成3年4月アメリカデトロイトGM社より1年間の共同研究を終えて帰国し、現在いすず本社にて勤務。

山崎嘉正君は、平成3年10月日本橋三越に亀屋50番目のお店を出店、小江戸川越にちなんだお菓子で皆様のお越しをお待ちしております。

……

39期

39期では、先日志木会ネームプレートを郵送致しましたが、15名程度の方が未だ発送できない状況です。もし、引越しなされた方などご存じの方がいらっしゃいましたら、丸山和紀の方までご連絡下さい。

(39期　丸山　和紀)

……

訃報

＊抜井宏寿君(1期)　平成3年8月3日
＊菊池隆三君(11期)　平成3年3月9日

訂正

会報5号の座談会で、1頁の平沢氏は別の方の話でした。この紙面を借りて訂正します。

志木へ来たれ、収穫祭だ！
青春の一コマ！

全国津々浦々うまいもの市

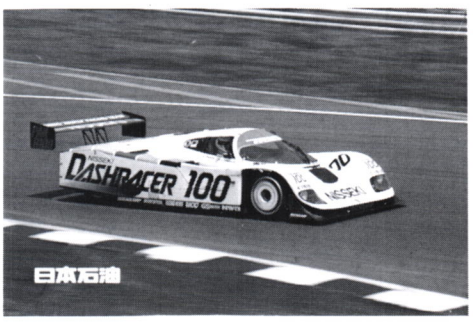
志木会では本年の収穫祭に於けるOBルームの主催イベントとして、全国47都道府県から集めた名産・名物・珍味を一同に、ゼロマージン販売を致します。北は北海道〝札幌ラーメン〟から南は沖縄の銘酒〝泡盛〟までまさに津々浦々、普段耳にはしていてもなかなか手に入れることの出来ないうまいものをどうぞご家族でご賞味下さい。当日ご注文いただいた品物は後日指定のお届け先に産地から直送されますのでお荷物にはなりません。またメモをご持参頂ければもちろんご自宅以外にも送り先を指定することも出来ますのでお歳暮としてもご利用いただけます。当日陳列する品物の一部をご紹介致しますが、それ以外にも「○○県の○○はないかね」というご要望にも1000種に及ぶリストの中から出来る限りお応え致します。

●北海道：けがに
●北海道：いかごはん
●青　森：特選津軽りんご
●山　形：米沢牛肉の粕付け
●秋　田：きりたんぽ・だまこもち鍋セット
●千　葉：蒸しあわび
●山　梨：信玄かちどきほうとう
●新　潟：笹だんご・三角ちまきセット
●富　山：ますのすし
●石　川：あまえび・ほたるいかセット
●岐　阜：幸水なし
●愛　知：名古屋コーチン味噌付け
●兵　庫：灘の手作り清酒
●和歌山：紀州特選梅干し
●広　島：能美島の生かき
●山　口：北浦名産うに
●高　知：鰹のたたき
●福　岡：味のめんたい福太郎
●鹿児島：黒豚やきぶた
●沖　縄：石垣島の特選海産物セット

収穫祭当日は、パターゴルフ・囲碁・将棋・チェスから雑誌・ファミコンなども用意しております。ご家族で、またご友人とお待ち合わせなどにもご利用下さい。

主役はこの100。
HY-PRODUCT
TEC-FLUSHER
2S-B（米国特許獲得）

走りを科学した無鉛ハイオクガソリン
日石ダッシュレーサー100



名簿委員会よりのお願い

来たる名簿改定にあたって以下の会員の方々の住所などが不整備です（平成３年８月31日現在）。
より充実した名簿発行のために会員皆様のご協力が、ぜひとも必要です。お忙しいこととは存じますが、調査方々お願い致します。判明した方については同封のハガキにて事務局までご一報の程をお願い申し上げます。

第1期

相原　嘉一
秋本　隆男
有坂幸三郎
生田　一哉
石田　隆一
板橋　澄男
今江　照雄
大沢　睦玄
加藤　明
川口　貞治
黒瀬　武雄
笹岡　伸吉
篠原　祥郎
下遠　武勝
鈴木悠基男
祖父江有司
高木　敏雄
高橋　忠治
対島　剛一
中西　晶
中村　信雄
間中　義雄
矢部　福司
渡部　昌一

第2期

宇津木貞夫
江成　敏夫
加藤　英治
兼田　重剛
木田　和夫
佐藤　克己
佐藤　邦雄
津川　豊
戸田　浩
堂本　誉夫
中村　信夫
永山　誠一
姫路　昭
松宮　一郎
宮野小太郎
本橋　隆一

第3期

東　明良
伊勢　吉春
池尻　勉
岩井　和也
上野　良明
梅原　耕一
海老沢　清
小田切康彦
岡本　幸平
小宮　元治
河野　啓
榊原　幸道
鈴木善一郎
高村　光男
塚越　一二
三田　佳保
村上　哲次
山下　彬
山元　康邦
横川　勇

第4期

石原　浩
近藤　善夫
湯村　嘉朗
吉岡　剛博

第5期

浅見　邦夫
井堀　繁雄
岩田　洋治
館野　勝
草柳　進
田中　保男
田村盛一郎
多賀　博
高瀬　朋亮
高山　信幸
丹野　英次
平野　宏人
福田　博定
村岡　宏
望月　浩美
森田　昭夫
山崎　嶂
山本　吉璋
吉居　正裕

第6期

小沢　毅
大久保好蔵
大里　巌
荻野　高司
粕谷陽一郎
木城　章夫
黒川　博元
笹野　昭
森川　宗祐

第7期

岩崎　浩一
岩野　一彦
小田　英雄
鈴木　一男
鈴木　基充
林　一身
細井　稔

第8期

味戸　美樹
井上　洋二
内堀　秀虎
大久保一成
下薗　四郎
長島　文和
野中　光政
藤川　俊彰
前田　裕二

第9期

岩井　清方
（武村）
岡田　威夫
亀尾　康憲
川田　淳也
小林　紀
小林　武
佐伯　和雄
佐藤　義夫
桜井嘉一郎
城崎　秀一
鈴木　基晴
田村健二郎
高仲　栄一
高橋　国男
舟久保博克
前田　光男
目崎　光義
吉田　英樹

第10期

田中　公司
多根　司
中原　幹夫
西井　浩哉
猪股　史禰
（高野）
石川　和夫
小田　英樹
大橋　一彦
岡谷　彰矩
木下　健
柴田　陽弘
白川　昭
中村　光延
西村　陸
福田　宏
宮崎　尚義
吉田　英樹
佐藤　洋之
佐野　強一
斉木　一
篠田　敬邦
関口　裕志
田中　英毅
渡辺　俊男
伊東　篤夫
今中　康夫
大谷　英石
奥村　隆一
官林　秀樹
上不　守康
松本　建夫
守屋　宣照

第11期

池田　嘉秀
市川　清
木脇　俊隆
北木　孝
鈴木　哲夫
竹之内　仁
細井　正弘
森　和樹
阿部　良三
秋成　恭行
今井　直躬
佐藤　宏
桜井　浩
須田　泰明
鈴木日出夫
成瀬　安彦
古川　康中
古田　正毅
吉武　勝
石橋　徹雄
加藤　倫義
金木　邦夫
木津　迪郎
栗山　透
佐藤　宏允
松島　陽三
吉原　守彦
原田　治
山口　侑二
井上　武彦
木村　昌彦
久保　芳二
高塚　仁郎
高山　暢二
（渡辺）
中島　実
難波　光由

第12期

今村　洋一
唐鎌　潔
楠　亨
藤岡　文孝
村上　礼
荒沢　信夫
奥平　禎男
白壁　征夫
辻　欣志
中村　直昭
野呂　真也
牧　和俊
松島　保正
山本　典嗣
上林　実
小石　淳
瀬川　昌臣
登山　魁
本田　孝
牧野　準一
今井　豊
小田　元彦
大石　迪夫
大岡　洋
大西　公男
嶋根　平吉
深谷　皓孝
福井　信行
松井　正典
森村　裕二
横尾　政直

第13期

久礼　初男
後藤　昌三
長浜哲一郎
水野　善弘
森　勝幸
池田　章
小林　康雄
高知尾　勲
高橋　誠
丹羽慎一郎
西出　隆雄
服部　宣孔
浜田　昭雄
藤里　尚孝
八木橋　洋
吉田鋼一郎
吉武　幸晴
石村　烈
大木　俊雄
片岡　洋一
菊間　裕展
葛井　統
栗田　勝也
五箇　博之
佐羽　俊男
嶋根　平吉
棟田　直毅
百瀬　廸男
矢部　貞臣
山本　雄一
若田　楯彦
渡辺　八郎
伊川　巌夫
大崎　洋助
大城　薫
大隅　勇次
香川　正典
兼子　誠
鴻巣　維彦
佐藤　真也
渋谷　健治
島田　忠夫
中井　康雄
村岡　康夫
百崎　直也
山本　泰
若林　琉生

第14期

石塚　久恭
加藤　精一
五郎　治
中山　晴
村瀬　輿紘
清水　博夫
白土　宣夫
椙田　雅美
瀬川　徳治
関　豊太郎
田中　嘉昌
高橋健太郎
築山　正俊
鳥羽　映一
広瀬　泰彦
大木　俊雄
大城　薫
大山　秀隆
周防　仁海
中尾　公一
中村　常雄
西浦　文崇
播　稔
福永　二郎
柳川　源二
磯　公則
岡　武人
岡本　秀樹
神山　昌之
頓田　悌二
中島　康雄
中田　三郎
真島　良次
和島　晃

第15期

荒　邦彦
山下　均
小野　直
岡村　俊夫
高井　真一
新井　正隆
川村　邦生
小寺　隆之
小山　和人
瀬戸　龍介
谷口　則夫
石村　烈
岩倉　具伸
森　保晴
門間　賢行
山本　埠生
阿部　久正
秋元　一之
楠田　格
鈴木　慶一
西山　裕之
野村　明徳
若林　紀生

第16期

一色　伸夫
市瀬　祐二
今井　正弘
今泉　裕行
内田　一朗
梅田　利之
小沢　邦宏
小田野展丈
小沼　哲夫
大沢　博史
大島　治
奥田　次郎
加藤　武文
加藤　裕樹
加藤　正明
工藤　親彦
佐々木直人
坂本　邦夫
里見　修
塩入　啓正
塩沢　真二
重田　吉宏
清水　節
須釜　一夫
鈴木　智博
関　隆夫
関谷　直人
田中　幸夫
多田　常紀
高橋　清
竹田　拓弘
常松　泰彦
中川　一彦
中村　晃三
長沢　彰彦
西村　亨
根木　圭治
橋元　一郎
原　伊作
坂東　宗文
平尾　恵一
藤ノ木　翁
藤村　和明
本田　達磨
松尾　隆
松岡　光彦
松下　正義
松谷　洋
三原　洋太
宮坂　光正
森田　泰史
八並　俊太
矢沢　径雄
安田　誠吾
柳沢　良夫
山崎　英和
山下紀一郎
山田　恒義
横溝　憲雄
吉田　進
渡辺　正之

第17期

小山　雄太
会田　晴彦
打矢　功一
江川　陽一
上岐　照雄
西野　知一
江前　公秀
門脇　正訓
小畠　秀樹
杉本　仁
田中　雅一
滝沢　透
生江　雅則
藤田　秀夫
森　裕雄
青山　高志
勝沼　恭一
柴田　均
武石　恒明
小川　光一
川口　雄次
張　英鴻
根木　圭治
増田富佐男
松井　博行
米林　俊一
牧　兼生

第18期

池尾　博文
小野沢義雄
大場　紹吉
斉藤　仁志
坂本　好司
榊原　昭正
鈴木　宣雄
高橋　徹夫
竹沢　美治
水野　和則
宮平　正樹
村田　徹
鷲山　久
輿梠　幸夫
鈴木　勝
坪井　一丸
手塚　隆二
徳永　良
富田　賢一
浜田　保宣
堀内　良一
前島　正
宮川　彰一
宮崎　正人
横山　裕幸
安達　格
有田　次郎
井口　敬一
池内　一秀
今井　正

桜井　裕久
地引　正紀
杉山　康志
関口　豊昭
宗　幸寿郎
詫間　康正
土橋　悦郎
友永　聡明
平田　卓
藤瀬　泰義
森田　賢一
山田　和令
依田　昭輔
米田　洋一
李　原守
輪湖　有
若井　勝廣
渡辺　規人
石沢　輝之
市村　隆夫
金田　一郎
日下部　健
御前　正宏
合瀬　公利
近藤　幹夫
沢田　尚史之
関　典之
高野　健吾
辻　正人
内藤　孝之
成瀬　正一
二瓶　晴郷
新田　良一
深井　正宏
松井　一朗
矢野　文之
伊部　茂晴
石田　恒文
今井　博史
小原　俊彦
小山田　仁
鎌田　尚利
後藤　安秀
桜井　哲夫
田中　聖
田原　敦男
高鳥　義修
高久　篤
中村　康夫
根岸　壮吉
野田　浩
平野　暁
細田　正典
正岡　裕章
丸目　典紀
丸山　由行
三沢　孝彦
宮下　邦彦
柳原　伸好
吉川　正明
上野　計
加古川　勝由
笠原　哲
片岡　正憲
川村　元
木元　正士
斉藤　幸広
西平　彰
森　伸之
善木　達明
和田　哲

粟山　茂
大内　千景
大山　親
貝塚　広史
神原　雅人
川手　隆
北原　衛
堀内　広宣
山県　裕一郎
内野　三郎
大野　哲博
小島　俊郎
桜井　茂男
清水　利男
菅井　毅
田中　竜太郎
土井　繁輝
根岸　壮吉
福井　泉
安井　浩平
横山　裕

第26期

飯沼　芳久
飯室　昭宏
市川　久伸
海老原　一夫
大森　正之
加藤　博
木山　靖史
後藤　博
末富　幸治
田中　茂之
武田　浩二
塚田　治伸
長井　秀夫
仁平　明
藤倉　康雄
古川　敏幸
増原　修
山田　康介
安保　清史
井手　宏
石崎　洋司
江成　宏之
江森　洋一
片野　雄司
北川　慎介
国枝　宏之
倉持　孝夫
小泉　眞
小倉　茂雄
五味　良男
佐々間　雅一
佐藤　伸
佐野　憲一
田蔵　信裕
田野口　仁
竹中　敏雄
豊島　昌司
中村　滋男
藤堂　誠
町田　秀隆
松本　裕之
依田　昌久
稲垣　達也
宇野　雅彦
笠原　次郎
雲谷　雅昭
小林　秀行
近藤　祐

伊藤　博
飯村　和之
風尾　幸彦
風嵐　祥平
小松　威彦
清水　克史
鈴木　章雄
（宮内）
南谷　尚志
山本　尚明
新垣　直也
伊藤　浩一
市原　勝太郎
金井　洋
椎野　三洋
高木　潔
時友　謙吉
松本　正
油納　正雄
石田　克彦
田久　浩志
高橋　美已志
寺沢　朗夫
檜貝　洋介
福田　浩三
松田　敏宏
藪下　敦夫
渡辺　律夫
明石　弘道
秋元　和夫
菅井　毅
高橋　広見
谷口　善一
手塚　隆一
徳納　啓樹
松岡　晴美
山田　裕

第25期

青木　龍夫
上村　肇
近藤　有司
中野　裕至
宮林　寛
矢守　茂
吉田　俊幸
小松　栄二
佐野　吉弥
斉藤　秀和
仲西　員実
萩原　利昌
向山　純
村田　貞
吉井　伸二
阿部　匡
小池　秀彦
小林　雅春
近藤　幹夫
杉谷　卓志
高山　宗久
玉井　良
鶴田　雅明
原　和史
桑原　純一郎
澄谷　健
寺田　孝
中島　康輔
中野　恒則
野原　善之
原　文比古
藤原　慎太郎

神田　貞利
北原　正敏
倉林　伸行
須田　光明
土井　宏之
三右　進
宮田　隆之
横山　利夫
阿部　三樹
上田　孝宣
大村　幸和
杉山　真一郎
谷口　清
野沢　康彦
三木　哲郎
三富　健
森部　淳
内田　哲也
金森　良純
木佐貫　明弘
小島　愛之助
清水　芳朗
曾根　清昭
竹内　誠
塚本　勝已
野口　仁美
野田　幸男
花岡　克明
安田　正信
天野　誠一
小野　健一郎
久保　雅司
佐藤　孝
武井　敏一
富田　典明
中本　浩司
西方　秀
増田　裕
迎　哲郎
山本　幹彦
依藤　光宏
梅戸　俊宏
熊　正明
島　敏明
鶴谷　信之
浜野　紀男
村田　雅邦
安田　二
吉田　淳
稲原　茂
古部　隆樹
小田　善明
大沢　清隆
川瀬　勝
小柴　茂
篠塚　秀男
嶋岡　正充
染谷　靖史
高田　淳一
高橋　宏
中井　健二
長沼　信治
登本　貴夫
福田　芳夫
藤居　光一
丸山　晴久
谷貝　博康
山田　大蔵
吉岡　仙弥

第23期

青山　正博
一柳　安孝
大島　慎一
大西　啓之
片岡　毅
塩川　孝治
岩本　秀治
梅沢　由起
小川　正次
菅　健司
桐野　耕二
塚本　勝已
豊国　達
中島　嗣郎
中田　圭太郎
宮川　輝雄
和田　光一
菊池　保史
串田　薫
黒田　英夫
斉藤　博
坂戸　美朝則
清水　茂樹
古川　英樹
松本伸一郎
山本　礼二
井上　博史
小久保　敏彦
児玉　敏宏
柴　俊一
鈴木　普一
田畑　譲司
豊村　隆
福與　宜治
末安　速男
高木　忍
高梨　和夫
深沢　孝雄
松原　誠一
渡辺　弘章
市田　誠一
小倉　敏弘
左藤　裕章
相馬　堅一
高田　秀雄
竹内　洋生
沈　正春
土屋　雄司
戸所　邦弘
宮嶋　泰

第24期

秋吉　満
井上　隆志
伊藤　裕章
岡田　章
佐藤　信雄
菅谷　一博
鈴木　敏文
関根　一彦
高橋　豊
猪塚　研司
金沢　正人
金成　弘毅
小寺　方之
野村　真一
野村龍一郎
松高　元志
山崎　康司

佐藤　和義
鈴木　傑
関根　正博
中山　善英
菱田　真也
平井　幸彦
古川　雅裕
松岡　扶行
分須　雅彦
今野一比古
亀井　哲也
木原　弘人
佐野　和男
内藤　薫
西巻　尚樹
畠中　和郎
藤野洋一郎
船戸　俊明
古西　勇武

第21期

石井　和喜
石川　隆彦
石山　吉男
栗原　圭一
柴田　則夫
寺西　克己
中川　治
今泉　宏隆
小川　博
小田　文昭
木住野　隆茂
北村　雅宣
田原　良美
高畑　武司
西田　彰徳
森田　克則
田中　昭弘
高橋　克彦
手塚　博之
伝田　英男
伊吹　信一
衣川　潤
今元　寛哉
岩下陽一郎
上原　秀幸
刈田　一道
嶋津　喜芳
木包　善伸
高岩　和夫
坪井　繁樹
寺西　正己
中村　哲夫
水沼　龍男
森山　宏紀
伊藤　文隆
卜部　恭治
外島　英夫
津保祐一郎
柳沢　辰也
山岡　尚哉
飯田　浩
内山　博生
川角　恒
小林　一
辻　芳彦
吉村　浩

第22期

五十嵐信哉
大橋　雅法

岡田　秀樹
加藤　昇司
須田　俊雄
岡　正孝
縞沢　武郎
長山　征広
片桐　正巳
志賀　敬
増田　和義
水島　順一
池田　忠行
石川　敬
内田　道夫
大谷　明裕
大谷　望
加藤　秀寿
山形　一郎

第20期

阿曽沼元博
会田　公平
沢田　直治
島村　圭亮
冨樫　慶一
野口　直幹
船津　睦夫
村岡　正
ジョン・T
ユンカーマン
芦沢　克巳
池戸　敏之
小沢　昌実
奥村　茂
落　裕美
加藤　幸雄
佐野　鴨彦
菅原　瑞夫
平林　隆男
本条　真行
八木　登
山田　隆正
山本富士夫
植村　和人
小野塚澄夫
大橋　克一
神谷　研史
林　茂
福原　俊雄
吉村　幸蔵
岩中　光明
小沼　均
岡田　稔
川満　正夫
北島　喜六
行田　裕司
小島　良一
佐原　藤雄
須藤　薫
西村　章
福地　俊幸
水野　保
宮田　潤一
山崎　英一
山田　正行
井坂　功
伊藤　文明
稲原　淳一
海野　和雄
荻野　耕平
木原　未知也
清野　雅彦

川内　信次
川田　道行
才田　準一
関　誠
関口　真
高味　文雄
西出　隆一
福田信一郎
横田　勇造
渡辺　佳英
浅生　岳
伊東　耕二
海堀　純一
金子　省三
木下　道夫
黒田　貢三
後藤　幸雄
坂本　光規
田中　陽
高瀬　宗救
萩原　昭人
保坂　周市
細谷　巌
堀内　啓一
森田　久雄
山下　経
渡辺　豊
宇井　清
岡田　要
奥野　隆康
落合　邦康
香川　正行
蠣瀬　勝治
小底　理志
小林　貞雄
斉藤　勝夫
重元　明雄
高橋　美隆
中嶋伊三夫
浜田　善章
間瀬　豊
山田　明
横山　公明
新井　由夫
五十嵐正博
石井　敬一
石川　広高
石塚　拓郎
風間　聖二
木村　和男
小嶋　隆史
坂本　恵二
鈴木　義人
戸田　幸博
鳥羽田哲男
根本　真
萩原　照久
深沢　進介
小崎　洋
渡辺　周央

第19期

井上　慎一
石田忠比古
加藤　徹
酒井　真人
仲野　遵
石井　敬一　隆
黒坂　隆
矢内　忠晴
穴沢　洋一

第27期

角倉　清晃
河合　壮一
木村　孝洋
園田　博之
安藤　秀泰
飯田　俊哉
石井　勝也
石松　智弘
岩田　一朗
内海　徹
小松　康孝
中島　康仁
西田　健次
浜田　弘道
堀谷　卓
前田　英作
宮崎　博行
横田　光弘
大上祐一郎
左京　龍治
関　俊明
田川　雄一
高橋健三郎
中野　幹也
広中　紀男
星野　晴彦
増田井出夫
井出　好昭
石田　茂
嘉山　典利
佐藤　俊一
杉本　拓司
竹野　延男
竹林　正雄
徳山　鐘雄
林　裕
本田　真朗
美平　照王
村戸　英仁
青戸　雅之
加藤　篤
茂松　直之
須賀　武文
竹内　斉
谷　有弘
古川　雄一
増田　聡
森　伸人
安岡　博之
諏訪　宏
竹田　忍
角田　周作
中野　哲夫
渡辺　宗樹

第28期

安達新一郎
阿部　滋
飯島　喜一
勝木　信二
釜堀　裕久
川上　幸一
向後　雅弘
柴田　秀昭
新本　弘
高橋　悦彦
浜田　亮
福田　雄彦
山田　守之
小島　孝博
小杉　公二
桜井　州明
田中　秀樹
中村　明夫
南村　譲治
若林　裕一
秋田　和之
池田　大
岡田　光司
川内　徹
浪花　誠
松村　俊雄
（李　俊熹）
後藤　明彦
関口　勲
相馬　稔
田中　真知
高山　信之
長沢誠一郎
西田　克彦
松谷　和昭
渡辺　芳夫
梅田　潤
加藤　幸司
河間　一説
坂本　隆
中村　晃
安田　一則
石井　常雄
久保田恭治
小島　一智
佐俣　勲

第29期

大熊　伸治
大野　太郎
木村　親永
菊池　真
国貞　泰生
斉藤　圭二
鈴木　康友
関口　陽介
藤田　雅明
横井　俊郎
伊崎　寿之
太田　淳
岡田　重和
桂　昌義
佐々木任人
鈴木　博史
前野　広
松本　浩之
峯岸　均
武藤　潤
安部竜一朗
伊藤　彰浩
石田　憲
斎藤　純寛
戸高　克彦
長屋　文隆
西川　洋
増田　雄一
山岸　行人
山崎　裕史
弓削　一郎
明石　達也
猪俣　俊人
裏地　正明
綿沢　一
釜堀　裕久
小泉　繁
小山　忠介
桜庭　智裕
清水　昇
関口　勲
高橋　路彦
中島　拓
平田　篤司
平野　哲
井口　益宏
桂　秀樹
金成　洋之
小柴　俊
桜井　敬三
野沢慎一郎
広田　智之
山口　伸幸
吉田　拓
吉本　幸生
阿部　智彦
池上　忠嗣
岩田　丈二
岡崎　友重
表　久志
金子　泰三
佐々木公明
佐藤　宏
野田　亨
真島　積
前田　光生
横山　邦彦

第30期

植田　慎治
内田　清丈
開高　直人
百瀬　春彦
山崎　俊朗
青木　隆
飯塚　元一
工藤　浩史
重松　雄一
関　鎮
松葉　芳郎
鎌田　慎一
高瀬　良二
高橋　正
竹内　真樹
福岡　靖晃
堀井　伸也
水野　雅一
宮崎　敏克
上野　大
江森　和久
大久保　豊
黒田　泰男
舟本　義明
別所　仁
松田　充浩
安藤　啓
石井　浩之
小林　慎一
塩川　秀樹
野路　研
森　弘之
青木　潤一
小林　伸行
佐々木　徹
新城　毅彦
高橋　功
竹島　哲也
村田　明弘
日良　淳
吉田　宏志
米山　稔男

第31期

阿部　守雄
伊沢　豊
伊東　匡
岩上　和弘
佐藤　健一
高田　昇
平田　政行
村田　尚久
森　剛一
森本　泰暢
吉田　敬
上薗　英樹
梅村　洋
太田　恵一
甲斐下方俊
四條　亨
田辺　俊夫
高東　雅志
中村　昌義
和田　一彦
糸賀　英樹
河口　勇治
白石　丈典
高橋　篤人
細井　貞男
屋代　真孝
内林　徹
緒方　寿夫
小宮山和太郎
小山　淳
古垣内　聡
多和田博一
大胡　俊武
中村　淳
宮本　昌幸
村重　望
山下　浩史
米谷　慶一
稲垣　正久
大谷　直誉
北島　英樹
高椋　喜幸
鳥居　映彦
名古屋利夫
浜田　順道
原　秀博
丸太　秀実
吉田　充寿
上田　晋司
小沢　治之
尾形　修
芽野　徹
倉持　英樹
篠田　敏暢
清水　茂仁
親崎　隆志
高橋　直人
徳田　伸一
間野　慶一
横山　宗夫
吉田　晋

第32期

植島　俊幸
馬野　俊彦
榎本　裕
佐野　智也
高波　伸一
横田　良治
荒井　司
川真田　潔
佐久間隆成
松田　誠太
山本　英行
大川　正宏
菊地　光
二宮　庸輔
西川　直樹
橋本　徹
浜野　敬一
半沢　雄喜
廣瀬　公寿
丸山　竜一
山田　晃
石附　知美
大森　信彦
木村　俊一
高橋　達雄
東泉　吉彦
永山　昌宏
真鍋　佳通
伊香　敬司
沖永　和貴
加藤　高志
志田　正人
神宮司　隆
高林秀一郎
寺田　洋
山田　容敬
大里　恒之
川上　真之
黒田　直哉
杉岡　正寛
園田　彰
東野　信宏

第33期

池田　重人
内倉真紀人
大久保和征
城戸　卓人
寺本　宏国
友好　真一
半谷　順
長谷川　洋
林　信濃
堀越　一嘉
松本　和也
丸山　達也
山田　鉄水
阿部　浩
伊藤　嗣
控井　和久
大塚　真彦
佐竹　直樹
須崎　徹
高橋　鉱二
深谷　裕一
小関　一徳
小野　泰成
大塚　和男
加藤　昌義
川合　康之
川瀬　裕司
外尾　竜一
中根　貴弥
西脇謙二郎
古沢　秀彦
松岡　洋介
松田　一弘
八木　隆
綾井健太郎
高野　禎泰
宮本　雅洋
安富　淳
山下　昌彦
稲村　隆司
清水　建司
田中　良
野矢　敦
服部　寛
樋口　恭行
石部　勝敏
江原　進
岡田　直也
勝目　聡
岸本　達夫
佐々木俊太郎
下妻　慶吾
横浜　雅彦
渡辺　亮

第34期

大隈　賢治
鈴木　宏治
山岐　真作
宇賀神　隆
北　裕光
坂原　暢紀
関　雅文
立田　雅人
新美　誠
吉村　洋一
加藤　宣之
栗俣　力
中村　宗之
西田　健治
宝中　健司
渡辺　直哉
岸沢　進
大野　啓史
高松慎一郎
前田　善徳
横田　哲郎
井上　弘世
近江　康晴
久保　修一
瀬戸川賢二
田中　充
田畠　正樹
西本　新也

第35期

大沢　宏樹
坂本　健夫
長久　幹
菊地　哲也
加藤　哲也
樽見　健治
西沢　一嘉
満田　理夫
石谷　樹人
金　周煥
大原英二郎
森　修
山崎　猛
和田　悟
黒野　雅資
原　啓一郎
平本　洋一
矢下　健二

第36期

大山　真且
長田　展明
熊田　徳英
中林　幹夫
村田　仁志

第37期

納所　伸樹
村橋　正之
山口林太郎
瀬戸　研司
萩野　啓太
松川　哲也
上野　健二
川又　陽介
宮崎　小吾
毛利　裕二
東海林　毅
坂田　利行
柴垣　律雄
加藤　朋之
上原　淳
桜井　武
瀧山広一郎
沼田　武彦
三好　豊
森本　悦朗
松永源太郎
安弘　裕二

第38期

田中賢一郎
古屋　直人
上野　直
河田　一郎
中村　直人
葛西　克彦
上田　成彦
西川　亨
川又　寛之
菊池　衛都

第39期

池田　博一
大塚　剛
林　浩之
松本　圭太
北田　亮
世良　州
津村　正晃
富原　大雅
羅　伯丞
粟倉　高志
大森　貴夫
香村竜一郎
日高　崇介
鳥越　修
内藤　昌史
中嶋　崇人
福田　泰

MESSAGE

お 知 ら せ

●第２回総会開催について

１面にてご案内のとおり、第２回総会を来年秋に開催いたします。皆様への正式なご案内は別途いたしますが、同期の方々等をおさそい合わせのうえ、振ってご出席下さいますようお願いいたします。

記

・開催日時　　平成４年11月29日㈰昼頃（予定）
・開催場所　　京王プラザホテル（新宿）

●維持会費の入金状況について

慶應志木会　名簿維持会費入金状況

（平成３年８月30日現在）

	今年次	在籍者数名	会費払込者名	払込率%		今年次	在籍者数名	会費払込者名	払込率%
1	23	94	36	38.3	22	44	270	61	22.6
2	24	60	20	33.3	23	45	271	56	20.7
3	25	48	10	20.8	24	46	267	48	18.0
4	26	45	14	31.1	25	47	262	55	21.0
5	27	106	38	35.8	26	48	268	38	14.2
6	28	85	32	37.6	27	49	249	42	16.9
7	29	98	31	31.6	28	50	248	53	21.4
8	30	94	34	36.2	29	51	277	38	13.7
9	31	116	33	28.4	30	52	262	54	20.6
10	32	196	62	31.6	31	53	253	30	11.9
11	33	218	65	29.8	32	54	262	34	13.0
12	34	202	72	35.6	33	55	244	24	9.8
13	35	212	68	32.1	34	56	265	49	18.5
14	36	195	43	22.1	35	57	266	30	11.3
15	37	259	81	31.1	36	58	258	55	21.3
16	38	260	60	23.1	37	59			
17	39	265	85	32.1	38	60			
18	40	261	43	16.5	39	61			
19	41	263	64	24.3	40	62			
20	42	260	58	22.3	合計		7,518	1,678	22.3%
21	43	259	62	23.9	平均		209	46.6	22.3%

（注１）・在籍者数はダブリ（約100名）及び死亡等を含む。
・振込者で無記名者あり。
・ダブリ者入金分両期とも入金扱い。

なお、本件に関するご照会は、下記宛お願いします。

幹 事 長　大谷　熙（１期）　Tel.3632-0005
財務委員　大道賢二（12期）　Tel.3231-1231

お　願　い

―名簿委員会よりのお願い―

●会員名簿発行についての会員住所確認

前回発行の名簿については、年月の移り変わりとともに、又会員の方々の移動等に伴い、改めて整備する必要が求められています。宛先不明の方々のリストを今回掲載しましたので、お知り合いの方はご一報下さるようお願い申し上げます。

●名簿広告について

第２回総会と合わせて慶應志木会会員名簿も第２回目を刊行する計画です。（今後も５年に１回刊行の予定）

つきましては前回同様に広告掲載のお願いを別途させていただきますので、その節はご協力の程お願いいたします。

●名簿委員の募集

名簿委員会では名簿発行に伴ない協力して下さる会員を求めています。協力して頂ける方のご一報を待っています。

※ 連絡先　小笠原 準一（15期）
TEL & FAX　03-3787-8236

編 集 後 記

夏以来、映画『福沢諭吉』を皮切りに、ちょっとした福沢先生ブームの観がある。没後90年、先生悲願の欧米キャッチアップに、有形では成功した日本。冷戦の終結にともなう激動の世界の中で、日本の果たすべき役割、無形のほうの充実など、福沢先生の生涯と思想に、ご相談しなければならないことが、未だ多いのだ。秋の夜長、近刊の好著二冊、横松宗氏の『福沢諭吉　中津からの出発』（朝日新聞社）、中島岑夫氏の『幕臣　福沢諭吉』（TBSブリタニカ）を、すすめたい。

1986年に志木で数学科講師をなさった女子高の住谷アサ先生が、女子高の「萌木」に書かれた「講師一年生」を、転載させて頂いた。転載をご快諾頂いた女子高と住谷先生にお礼を申し上げます。　（馬）

慶應志木会会報　1991（秋・冬号）●vol.6

平成３年10月10日発行
編集・発行　慶應志木会（慶應義塾志木高等学校同窓会）
〒353 志木市本町４-14-１
発 行 人　櫻 井 英 太 郎
印　　刷　㈱精興社